

# 令和5年度 岡山県文化振興審議会

開催日：令和6年1月31日（水）14時～15時30分

場 所：ルネスホール ワークルーム

## 1 開会 あいさつ

### 【環境文化部長】

皆様方には、大変お忙しい中、令和5年度文化振興審議会に御出席いただき心からお礼を申し上げます。また、平素から文化行政の推進について、多大なる御協力、御尽力をいただいております、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

さて、県では、昨年度、コロナ禍で浮かび上がった課題や、社会のデジタル化などの進展を踏まえ、皆様にも御審議いただき、岡山の文化振興ビジョンの中間見直しを行ったところである。

今年度、改定されたビジョンに沿って様々な文化施策を展開しているところであるが、岡山の文化を次世代へ継承し、発展させるため、今後一層努めてまいりたいと考えている。本日は、今年度の県実施事業やおかやま文化振興ビジョンの進捗状況、併せて来年度の重点事業などについて御報告するので、御意見や御提言をいただきたい。

本日の御審議での委員の皆様のご格別の御協力を賜りたくお願い申し上げます。

## 2 議事

- ・ 令和5年度県実施主要事業
- ・ おかやま文化振興ビジョン(2018-2027)2023改定版の進捗状況について
- ・ 令和6年度重点事業

《事務局から資料に基づき説明》※略

### 【会長】

- ・ たくさんの企画展などを行っているのですが、本当に長続きするのかを心配していたが、多くの方が楽しんで見に行っており、成功しているのではないかと。事務局からの説明に対して質問や意見があれば発言してほしい。

### 【委員】

- ・ 岡山県自体が、文化やアートに向かって少しずつ動いてきてきているということが大変ありがたい。

- ・ 障害者のアートにすばらしいものが多く、作品が購入されることで障害者の収入にもなっているので、県で周知するなど、後押しをしてほしい。
- ・ 森の芸術祭が県北で開催されるが、市民と連携し、地域に入っていく、皆さんと知り合い、納得していただいた上での芸術祭を開催することが大事だ。  
 県北で3年ごとに行われるような芸術祭にするためには、ボランティアの招集など、いろいろな細かいことも含めて、より市民が協力してくださる方法、納得して喜んでくださる方向に持っていくべきではないか。

### 【会長】

- ・ 障害者のアートは我々が見てもものすごく驚く。そういうものを通じて、健常者も、自分たちは今何をしたらいいかということを考えれば、岡山県下の障害者と健常者が一緒になって文化を発展させていくことができるだろう。

### 【委員】

- ・ コロナ禍が収束し、ますます活発に様々な取組が展開されつつあると感じており、非常にうれしく思う。
- ・ 自己評価について、不足、不十分なことに係る記述が非常に少なかった。今後の発展に向け、まだここは不十分だということをもっと目を向けていく必要がある。  
 自己評価の参考として、私が指導する学生による森の芸術祭をテーマとする卒論を紹介したい。芸術祭に関わる主体間の連携に着目をし、関係者から話を聞いた。  
 その結論の1つは、主体間の連携が十分に図れていないということであった。理由として、まずアートという言葉がわかりにくく、何をするとアートとなるのか、自治体の職員の間でも明確になっていない。もともと自治体には専門の職員がいない中で、「何をやったらアートなのかよくわからない」ということだ。また、自治体間、自治体と企業との間でも使う言葉が違う。開催地でも、作品が実際に展示される自治体とそうでない自治体との間での温度差もある。県と市町はつながっているが、市町同士の連携が図れていない。  
 自己評価の参考のために学生の論文を紹介したが、自己評価をする際には、欠けている可能性があるのではないかという問題意識を持ち、様々な主体の様々な視点からの検討が必要ではないか。
- ・ 外国人について関心を持っている。美作市では、日本人とベトナム人を交えたサッカー大会交流会が開催されており、サッカーなどのスポーツにより、人と人が自然に繋がるができることに、非常に感心した。「アートって、一体、何だろうか」ということもあるだろうが、いろんな人がつながることができる可能性を持っており、ぜひ、大人、子ども、障害の有無、国籍の違いを超えて、様々なアートの取組に参加してほしいが、外国人の方々は、情報にアクセスすることが難しい方もおられるので、ぜひそういった側面も考慮してほしい。
- ・ 最近、兵庫県や滋賀県でも、知事が海外に目を向け、自ら海外に出かけていき、

産業政策として交流を深めようとしている。例えば、ベトナム展やミャンマー展といった、従来の発想にない展示や取組があれば興味深いだろう。

#### 【委員】

- ・ 県が様々な取組を展開しているのはわかるし、課題を記載していることもわかる。豊かで魅力的で暮らしやすい地域づくりを県も市町村も取り組んでおり、県は県の役割があってこういう事業を展開している。そこで気になるのは、市町村が関わった事業が出てきてないなという感じがしていることである。実際にはやっているのだろうが。事業は、打ち上げ花火のようなものだけではなくて、それをいかに持続させ、発展させていくことが、地域に根付いていくということなのだろう。
- ・ コロナ禍で大きな化学変化が起きたわけだが、文化を新しい地域づくりに生かす、ということこれからぜひやっていただきたい。県は県の立場があるが、やはり、市町村と一緒にやっていくべきだろう。
- ・ 森の芸術祭でもそうだが、初めてのことで、県北のいろんなところで展開し、鑑賞者がどのように動くか、いろんな試行錯誤をしていると承知している。その際にも、市町村に温度差があるのはわかっているが、県の立場で市町村を動かしていかなければならない。JR 各社が森の芸術祭を PR し、全国から人が集まる。県北で核になるようなものが無い中で、これから核になるものを作るということで、いかに地域に響くものにしていくか、大変な作業になると思うが、大変な作業に挑戦することが新しい時代を作ることになるのでぜひ成功を目指していただきたい。
- ・ 岡山では、旭川荘の先生の尽力により「きらぼし★アート展」という障害者のアートの展示を全国に先駆けて行い、今では岡山に結構根付いているので、そのあたりにも力を入れていただきたい。

#### 【委員】

- ・ この文化振興ビジョンはよくできていると思う。ただ、言葉として協働があり、促進があり、支援があるということは、県から後押しがあるということだろうが、それぞれのプログラムについて意見を伝えたりアドバイスをしたりといったことを行っているのか。つまり、「こうした方がいいのではないか」「この人にアドバイスを聞いた方がいいのではないか」という意見を、県が出す余地はあるのか。

#### 【文化振興課長】

- ・ 資料に掲載した公募事業では、提出された事業計画書を審査員が選ぶが、その過程で様々な意見をいただく。今まではそれを提案者に伝えていく機会が無かったが、今後、例えば、審査の過程で提案者からプレゼンをしていただき、その場で審査員からの意見を提案者に伝える機会を設けて、より良いものができるようにしていくことも検討しているところである。

## 【委員】

- この文化振興ビジョンはよくできていると思うが、例えば伝統芸能についてはどうか。体系図の「岡山からの文化発信」など、この全体的な方向の中で漏れているものをどう拾うかということが、私たちの命題である気がする。特定の文化活動団体などと連携をして支援すると、今度はやらせになってしまう。だからそのあたりに問題があるような気がする。
- 日本全体でいうと、今やらなければならない伝統芸能に対する手立ては、「落ち穂拾い」だ。全体の流れってというのがどんどん時代とともに変わっていく。それをみんな未来思考の方への展開を図ろうとする。ところが大事なものが漏れている。その落ち穂を拾って考察することによって、その伝統文化のその原形が何かというのを、絶えずやっぱり考えていかなければならない。
- 例えば演劇だ。今は集音マイクとライトが当たり前になっている。たかだか100年、数十年の間である。それ以前はマイクが無いので地声だった。地声でいかに遠くまで、客席全部へ届くようにするか。また、ライトはあってもろうそくか灯明だ。そうすると揺れる。今、時代劇では行灯で揺れるような場面は無い。そこで演技がどう生まれたのかという背景がわからなくなってくる。例えば歌舞伎では、見得を切るとか、隈取りをするといったことの本来の趣旨がわからない。次の世代に考えてもらう機会が必要だ。
- 神楽についても大幅に変わってきている。ユネスコの無形文化遺産の登録について、風流踊りの後に神楽がノミネートされていたが、日本酒が横から入り、今度は茶道が入ってくるので、神楽のノミネートの順番がどんどん後回しになっている。理由は、神楽を簡単に世界に訴えるために、既に無形文化遺産に登録されている早池峰神楽と佐陀神能を下ろして、日本の神楽としてまとめることにより世界にわかるように整理してほしい、という話になっているからだ。
- 日本の神楽をダイジェストして英文化するとき、やはり神様というのをいさざるを得ない。まず神様に向かって何をしたかというのがあって、それが今度は祭の賑わいの中に、人に向かってどれだけ面白がってもらえるか、と変わってくる。これが古代からずっと千年ぐらいの歴史の中で、明らかな変化をしている。現在の備中神楽では、神代神楽という演劇化した江戸の文化・文政でできた神楽だ。それを始まりだと言ってしまうと、たった3百年ほどの歴史になってしまう。それ以前の神楽には、面を付けずに舞い、神に向かって清め、願いごとをし、それを受けて託宣するといった内容もあった。
- 文化庁からいろいろ聞く機会があり、文化庁側ではかなり柔軟性を持ってきている。一方で、地方の教育委員会など、神楽を支援するところで戦後アレルギーがまだある。つまり戦前の神社神道、皇国史観といったことがあり、文化財指定の最初は政教分離で、その神事の部分は外して芸能の部分だけを指定し、神事まで含めての了解は取れなかった。時代ごとに変わるのは当然のことだが、変わった時点が始まりではない。その前があるということ、いかに次の世代に伝えるかは、私たち

に課せられた命題だ。そういう問題についてこの審議会から提案などができるのであれば、皆さんの御意見を調整していただき、例えば、今、演劇を一生懸命やっている人に、ライト無し、マイク無しという機会を、1回作ってやってもらうということが大事だと思う。それをいかに面白がって、その中から、誰かが何かを覚えてくれたり、発見してくれたりすればいい。こうしろ、ああしろではなく、機会を作るということについて、こういう場で皆さんと話し合いをしてはどうか。

#### 【会長】

- ・ やるべきことが多いと思う。

#### 【委員】

- ・ 様々な文化の原形をとどめているものはすごく大事だが、そういう落ち穂になりかけているものが、非常にたくさんある場所が岡山だろう。落ち穂になりかけているというのはまずい。岡山の文化を考える上では、落ち穂拾いをし、また落ち穂になりかけているものを落ち穂にしないということが、とても大事なことだろう。
- ・ 今回の資料についての質問だが、成果指標は単なる参考に過ぎない、ということはどこかに書いてあるのか。文化振興ビジョンにおいて、目標数値とせずに成果指標という言葉にしたのは、「物事をこんなことで評価できるものではないよ」という意識があったものの、数字も示さなければいけないという、よくわからない至上命令みたいなのがあったので、成果指標とし、目標数字ではないということになったという経緯について、どこかに注意書きをしてほしい。
- ・ この文化振興ビジョンは2027年までのものだが、そろそろこの次を作るということを、考え始めるべき頃ではないか。この文化振興ビジョンは、すばらしいと思うが、2027年が近くなった時点から振り返れば、今の文化振興ビジョンは、牧歌的な文化観に立脚していた、などと言われるのではないか。
- ・ これから文化の位置付けや意味は、今とはかなり違ってくるし、重くなってくる。テクノロジーが進化し、文化が使えるツールは劇的に増えてくるとき、社会の中で果たす文化の役割というのは、かなり変わってくるだろう。例えばAIに対応し、文化は一体どうなるのかということを新しく検討しなければならない。
- ・ また、今のイスラエルやガザの問題にしても、あるいはウクライナの問題にしても、文化という背景を考えずに実態を把握することはできないし、解決策を見出すこともできない。政治や法律では解決できないような問題が山積している。そういうことが世界の大きな問題になってくるといいう時に、新しく岡山県の文化振興ビジョンを2027年に作るということになれば、本当に根本まで遡った検討が必要だ。
- ・ 次の文化振興ビジョンについて、総論が大事なので、根本問題や総論を検討するチームを早く立ち上げ、そこでは、私たちのような前世代の人間ではなく、次の世代を担う方々に考えてもらってはどうか。その時に、ぜひキーワードとして、一つどこかに持っておいていただきたいのは、文化の全ての基本は哲学であるということ

とだ。そういうところから、次の文化振興ビジョンの総論を起草するための検討を早く始めることをお勧めする。

- これからの日本の文化を考えるときには、日本各地の言わば文化の多様性をそれぞれ認め合いながら、「じゃあうちはこうだよ」ということをやっていく。そういう文化的なもので日本全体が繋がり合っていく。そういう世界を、日本を、もう一度作り直すためには、文化庁が京都に来たことも1つの良いチャンスかもしれない。そういう全国ネットワークの中で岡山を位置付ける、という形での新しい文化振興ビジョンを作ることができればすばらしい。
- かつては文化人のネットワークが日本にあった。そういうネットワークの中の1つとして、岡山の文化を位置付けるような形での、2028年以降の文化振興ビジョンを考えていただきたい。
- 今回の文化振興ビジョンですばらしいと思うのは、やはりその県北、県内全体にすごく目配りが届いている。ただ、今、県北はすばらしいが、吉井川以東と高梁川以西をどう考えるか。吉井川以東はすばらしく活発になっていると思う。高梁川以西についても少し目配りをして良いのではないかと思っている。

#### 【会長】

- 今日は、文化の原点、真髓についての議論があった。岡山にとって大切なのは芸術や文化であり、我々が踏ん張って流されないようにすべきだ。精神的なものだけでなく、物理的にも世の中がおかしくなっていると思う。そういった状況を正すためには精神、神髓、進路を打ち立て直さなければ無理だろう。

### 3 報告事項

#### 【文化振興課長】

- 臼井会長と、本日御欠席の高原委員におかれては、現在の任期の満了をもち、本審議会の委員を退かれることとなった。臼井会長には平成18年9月の本審議会の設置からの18年にわたり、また、高原委員には平成30年2月からの6年にわたり、県の文化振興に御尽力を賜った。心からお礼を申し上げます。会長から御挨拶をお願いしたい。

#### 【会長】

- 我々は大きな転機に立っている。これをいかに良い方向へ舵取りするかが大事になってくる。パレスチナなどで起こっている状態を見ているが、社会の根幹から文化芸術が無くなったとき、世界があのような状態になっていくのではないかという気がする。今なら、我々は一番肝心なものを持ってやっていけると思う。
- なかなか取り上げられることはないが、岡山は歴史的にみて最先端を進んでいた

ものが多い。こういう岡山が私は日本を変えていくのではないか。ただ、文化を粗末にしたら絶対無理だ。

- ・ 岡山のすごさの例として、稲作がある。稲作は中国の揚子江から日本に流れ着き、約6千年前から行われている。揚子江から近い九州などの方に早くに定着するはずだが、全国的に最も古い時代の稲作の痕跡のうち80%は岡山にある。岡山の文化のすばらしさを、若い人をはじめ多くの人に積極的に伝えてほしい。

#### 4 閉会 あいさつ

##### 【文化振興課長】

- ・ 本日は臼井会長をはじめ、委員の皆様方には終始貴重な御意見を賜りお礼を申し上げます。関係部署と共有・連携しながら、しっかり県庁内で議論していきたい。
- ・ 臼井会長と本日御欠席の高原委員には、長年にわたり県の文化振興に御尽力をいただき、心からお礼を申し上げ、今後とも県の文化行政へのお力添えを賜るようお願い申し上げます。引き続き委員を引き受けていただいた皆様におかれても、今後とも本県の文化発展のため御指導をいただきたく重ねてお願い申し上げます。

以上